

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルナ もりのこびとたち		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 18日 ~		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025年 2月 18日 ~		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	記録をもとに、支援の様子を振り返り、次の活動の参考にしている。また、活動内容をその子の好きな事に関連させて、楽しく活動に取り組めるよう支援している。	1人1人の活動を参考に、小集団での活動に発展出来る様、記録を活かしたプログラム作りに取り組む。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切である。	児童発達支援では、マンツーマンの職員配置を基本としている。慣れるまでは、担当を一定期間固定とし、その後徐々に色々な支援員との活動に楽しく取り組めるようになるよう、配置を行っている。	児童発達支援では、引き続きマンツーマンを基本にした人員配置を行い、安心して楽しく活動に取り組めるよう、支援する。また、指導員の得意を活かした療育に取り組めるよう、活動内容によっても配置を適宜アレンジしていく。
3	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。	ヒヤリハット報告書の記載は、自己申告や報告をもとに、出来るだけその時の状況を詳しく記載し、善後策をコメントし、共有しており、随時、情報を更新している。	ヒヤリハットの共有は、特に重要と考えており、日々変化する利用児童の状態に合わせて、慢心することなく、注意深く利用児童の行動を観察し、適切な療育につながるよう、今後も継続して取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	身体拘束が必要な状況は発生していない。	身体拘束が必要な状況は発生していないが、今後、自傷や他害等身体拘束が必要になる状況を仮定して、組織的な対応について具体的に検討し、通知する。
2	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。	マンツーマンで指導員を配置し、また少人数の為チームで支援する事が今のところ発生していない。	今後は、マンツーマンの担当制を維持しつつ、小集団でも活動ができるよう、児童の受け入れ人数を増やしていく。
3			